

第 18 回蒲郡市地域公共交通会議 議事録

- | | | | |
|---|-----|-------------------------------|-----------------------------------|
| 1 | 日時 | 平成29年3月23日(木) 午後2時30分～午後3時30分 | |
| 2 | 場所 | 蒲郡市役所 本館 303会議室 | |
| 3 | 出席者 | 委員 | 愛知工科大学自動車短期大学自動車工業学科教授 橋本孝明 |
| | | 委員 | 名城大学理工学部社会基盤デザイン工学科教授 松本幸正 |
| | | 委員 | 愛知運輸支局 杉本忠久
(代理 渡邊久志) |
| | | 委員 | 愛知県交通対策課 桑原良隆
(代理 瀬古忠義) |
| | | 委員 | 総代連合会会長 酒井雅幸 |
| | | 委員 | 総代連合会副会長 岩瀬雅史
(代理 天野忠則) |
| | | 委員 | 総代連合会副会長 小林俊雄 |
| | | 委員 | 形原地区公共交通協議会 壁谷権一郎 |
| | | 委員 | 蒲郡市身体障害者福祉協会 金沢孝一 |
| | | 委員 | 蒲郡市老人クラブ連合会 市川紀子 (欠席) |
| | | 委員 | 蒲郡市社会福祉協議会 金原久雄 |
| | | 委員 | 蒲郡市小中学校PTA連絡協議会 小林暁子 |
| | | 委員 | 蒲郡商工会議所 小池高弘
(代理 佐藤康彦) |
| | | 委員 | 蒲郡市観光協会 杉山和弘
(代理 鹿野公朗) |
| | | 委員 | 名鉄バス東部株式会社 藤田信彰
(代理 徳田裕二) |
| | | 委員 | 豊鉄タクシー株式会社 小川健司 |
| | | 委員 | 株式会社かね一自動車 石田悦司 |
| | | 委員 | 名古屋鉄道株式会社 木本正則 |
| | | 委員 | 公益社団法人愛知県バス協会 古田寛 (欠席) |
| | | 委員 | 愛知県タクシー協会 山田透 |
| | | 委員 | 愛知県交通運輸産業労働組合協議会 白井淳
(代理 壁谷政志) |
| | | 委員 | 愛知県蒲郡警察署 肥田尚幸 |
| | | 委員 | 東三河建設事務所 柴田厚
(代理 有賀新祐) |
| | | 委員 | 蒲郡市長 稲葉正吉 |
| | | 委員 | 蒲郡市総務部長 壁谷勇司 |
| | | 委員 | 蒲郡市企画部長 大原義文 |

委員	蒲郡市市民福祉部長	鈴木富次
委員	蒲郡市建設部長	大場昭佳
委員	蒲郡市産業環境部長	吉見和也
委員	蒲郡市都市開発部長	鈴木成人
事務局	蒲郡市交通防犯課長	竹内正樹
	蒲郡市交通防犯課長補佐	竹下暁
	蒲郡市交通防犯課主事	足立昌平
	蒲郡市交通防犯課主事	鎌田司郎
	連携計画推進事業受託事業者	三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社
	社	1名

4 傍聴人 5人

5 議題

(1) あいさつ

6 協議事項

(1) 平成29年度蒲郡市地域公共交通会議事業及び予算案について・・・【資料1、2】

7 報告事項

(1) 形原地区支線バス利用状況等について・・・【資料3】

(2) 路線バスダイヤ変更について・・・【資料4】

8 その他

9 議事内容

(1) 開会

- ・ 開始時点で出席委員が28名であり、定足数に達しているため、蒲郡市地域公共交通会議設置要綱第7条第2項の規定により会議が成立すること、本日の会議が公開となっており傍聴人がいること及び連携計画推進事業受託事業者として三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社に参加していただいていることが事務局より報告された。

(2) 議題

ア あいさつ

蒲郡市長、稲葉正吉より、これまでの経過だが、6月に地域公共交通総合連携計画を引きついだ交通網形成計画を策定した。本日は来年度の予算案を協議いただくが、引き続き計画推進のためご協力いただきたい。計画に基づく事業として形原支線バスは順調に運行しており、回数券の導入、ルート変更等実施した。地域と協働し、今後もよりよい交通の提供を目指したい。地域で創り、守り、育て上げる持続性の高い交通を具現化した事業である。地域と協力し、より持続性の高い事業を成長させていきたい。委員の皆様方には忌憚のないご意見とご協力を賜りたいとのあいさつがあった。

(3) 協議事項

- ・ 議長より本日の議事録署名人として2名の委員が指名された。
- ア 平成29年度蒲郡市地域公共交通会議事業及び予算案について
- ・ 事務局より資料1、2に基づく説明と地域公共交通確保維持改善事業費補助金の地域公共交通調査事業の申請の事務局への一任の提案が行われ、全会一致で承認された。

[質 疑]

(委 員)

- ・ 網形成計画のスケジュールがあり、来年度は基本的にこれに沿って進めると理解している。交通空白地解消のための取り組みについて、第2の支線バスの事業構築、他地区へ周知するという流れがある。見通しなどを教えて欲しい。
- ・ 旅客の分かりやすい情報提供について大切だと思う。ナビテラスで行っているが、その現状を確認したい。
- ・ ネットワークの見える化について具体的にあれば教えて欲しい。

(事務局)

- ・ 第2の支線バスの事業構築の見通しについて、これまで2回の説明会を塩津地区と三谷・豊岡地区で行った。その時には、協議組織の設置の必要性について具体的な進展は得られなかった。計画にあるように他地区での推進を位置づけているので、ルート案などを示しながら地域に働きかける、興味を持っていただける対応をしたい。
- ・ 2点目の情報提供について、路線バス・形原地区支線バスの時刻表を設置、配布していただいている。支線バスの事業開始以降、ナビテラスに時刻表を設置し、現在も継続して配布している。
- ・ 見える化の事例として、アプリ事業者へダイヤ等の情報を提供があるかと思うが、愛知県で情報の取りまとめサイトの構築を進めていると聞いているので、そういった事業との関係を図っていきたい。

(委 員)

- ・ 交通施策は、免許の制度が変わり、高齢者の免許の更新が厳しくなり、免許返納者が増えるといわれ、受け皿づくりが急がれている。面からのアプローチとして、免許を返納しても移動できる環境整備について、地元地域と一緒に議論を進めて欲しい。

(4) 報告事項

ア 形原地区支線バス利用状況等について

- ・ 事務局より資料3に基づいて報告が行われた。

[質 疑]

(委 員)

- ・ 2月にルート変更を行い、整形外科の停留所の設置で利用者が増えた。3月の利用も整形外科に行く人が増えたと聞いている。今後も利用が増えていくと思う。
- ・ 今の予想では3,900人ぐらいの利用になると思う。昨年より700~800人ぐらい増えると見込む。
- ・ 免許の自主返納者の利用も増えている。今後の拡大も期待している。
- ・ これまでネックだった男性の利用も増えている。少しずつ浸透していると思う。競

艇に行くにも、支線バスと路線バスを乗り継いでいく人がいた。ユトリーナも自転車からバスに切り替えた方がいる。男性の利用も少しずつ増えている。

- ・ もっと便を増やしてくれないかという意見もあったので、付け加えさせて頂く。

(委員)

- ・ 地元から、順調に推移している、心強い言葉を頂戴した。他の地区でも手を挙げていただけるとありがたい。

(委員)

- ・ 地域からの報告は喜ばしいこと。地域の取り組みの成果だと思う。スーパー、病院の利用が多い。地域の努力の結果。

- ・ 停留所ごとの分析のコメントがよい。狙った通りの利用だったという言葉など。

- ・ 現状の心配事項としては、駅の利用が減っている。網形成計画、ネットワークを考えると、鉄道との乗り継ぎは重要で、利用者の減少が分かれば教えて欲しい。

(委員)

- ・ 理由を考えると、高齢者の人が蒲郡駅まで出てこないで、地区内で完結しているのではないか。駅まで出る場合は、車で送迎してもらっているのではないか。生活の足として地域内での移動が定着し、乗り継ぎして蒲郡駅まで出ることは少なくなった。

- ・ 広報などで情報伝達したが、やはりPRには時間がかかったが、ここにきてじわじわと定着してきたと思う。こうして定着したものは、一気に減らないと思う。地道にやって地道に上がるものは、持続性が高い。

- ・ 4月には、回覧板を再び回したいと思う。

(委員)

- ・ 足が弱い方が利用していた。バスから電車への乗り継ぎは、足の弱い方には段差がしんどいと思う。そうした人が形原支線バスで直接いけるとところに切り替わった。大門というバス停は、接骨院があるところで典型的な形。行きは、バスで現地まで行き、帰りは家族に迎えに来てもらう。乗車数よりも降車数のほうが多い。家族の送迎を片方だけにして、家族の負担を減らしている。

(委員)

- ・ 地域で自立した生活ができることが実感できる。

- ・ 乗りきれなかった場合の、積み残しは発生していないか。

(委員)

- ・ 積み残しがありそうな場合は、待機しておりフォローをしている。対応できている。

(委員)

- ・ 増便などの取り組みの必要性も地域で検討をしていただいたら良いかもしれない。

(委員)

- ・ 保育園からの要請で、園児の送迎利用したいという話があった。利用する人数そのものが、乗れない数であり、タクシー会社と対応を相談した。実際は雨だったので、イベントがなくなったが、タクシー事業者の自主的な協力でサポートしていただいている。

- ・ タクシー事業者のサポートだけでなく、行政等の何らかの支援があればと思う。

イ 路線バスダイヤ変更について

- ・ 事務局より資料4に基づいて報告、運行事業者より説明が行われた。

〔質 疑〕

(委 員)

- ・ 利用者が減っている中で、路線が残っているところはありがたい。ただ、朝の便がなくなるので、既存の利用者は代替できる手段があるのか。

(委 員)

- ・ バス路線と平行して、鉄道がある。駅間が短いので、鉄道である程度補完できる。以前は、朝の時間帯に20分間隔で運行していたが、通勤通学は、最近では利用が見えてこない。昼間帯の自動車移動ができない方の代替路線として利用されている。通勤通学は、駅まで自転車で行っていただくことや、30分後のバスを利用して対応してもらいたい。

(委 員)

- ・ 朝のOD調査の利用者の、利用区間が分かれば教えてほしい。

(委 員)

- ・ 具体的な数字を持ち合わせていない。過去のイメージだと当該路線の利用は、蒲郡駅側の町部の利用があった。

(委 員)

- ・ 仕方がないことだが、こうなる前に行政と一体となった利用促進を図りながら、対処していくことが重要だと思う。

イ その他

(事務局)

- ・ 次回の地域公共交通会議は6月ごろ予定との連絡を行い会議は終了した。